

各 位

平成 27 年 8 月 11 日

会 社 名 黒 田 電 気 株 式 会 社
代 表 者 取締役兼代表執行役社長 細川 浩一
(コード番号 7517 東証第一部)
問 合 せ 先 業務執行役員 経営企画本部長 持丸 守
(電話番号 03-5764-5500)

Glass, Lewis & Co., LLC レポートに対する当社の見解について

2015 年 8 月 21 日に開催予定の当社臨時株主総会に C&I Holdings (代表：村上絢氏) 等 (以下「請求人ら」) より株主提案として付議予定の「取締役 4 名選任の件」につきまして、2015 年 8 月 7 日に米国の大手議決権行使助言会社であるグラス・ルイス社 (Glass, Lewis & Co., LLC) (以下“GL 社”) から顧客の機関投資家向けに、株主提案に対し**反対推奨**を行う旨の英文レポートが発行されました。

当社においても、GL 社のレポートを確認する機会がございましたが、この GL 社による評価こそが、コーポレート・ガバナンスの要諦に忠実であり、かつ、今回の株主提案の本質を見極め、当社の中長期的な企業価値の向上並びに株主共同の利益に資する公正なものと考えられることから、多くの株主の皆様にも、その議決権行使にあたり参考としていただきたいと考え、皆様にとって重要と考えられる論旨をご紹介します。

- ① まず始めに、請求人らの主張全体が、簡素で定義のはっきりしない漠然とした議論 (不適切なガバナンス、不十分な株主還元、過去の CB に関する資本政策の問題点) によって構成されており、株主提案の意義を実質的に裏付けるためのきめ細かな議論がなされておらず、その議論が空虚であると判断できること。
- ② 当社が反対理由としている、高い独立性を有する独立社外取締役 3 名がその半数を占めている取締役会の構成により、当社において、既に有効に機能しているガバナンス体制を前提とすると、新たに取締役を選任する決定的な理由や、その主張を裏付けるデータもないこと。
- ③ 長期的な株式保有を前提とした安定的な株主還元を重視すべきだとする当社のスタンスを評価し、当社が 7 月 10 日に発表した株主還元策の合理性を評価するとともに、逆に、請求人らが主張する今後 3 年間の配当性向を 100%とする株主還元の実施に関しては、柔軟性のない提案で、請求人らの主張する株主価値の向上が疑問視されること。
- ④ コーポレート・ガバナンスの常識からして、特定の株主からの独立性がない社外取締役候補の 4 名追加について賛同できるような特別な状況に当社があるとは考えられないこと。

これまでに当社は、当社の株主の皆様にご請求人らの提案に対する反対意見について説明を行ってまいりましたが、すでに当社の姿勢に対するご賛同のお考えをお伝えいただいた株主様も数多くいらっしゃいます。株主の皆様が論点の本質を見極めた上で、株主提案への反対の議決権行使をされることをお願い申し上げます。

以上